

平成31年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの個性・可能性の開発と伸長が図れる教育課程を実践し、自立した個人として必要な社会実践力を身につけさせる。 ②「学ぶ」楽しさを意識した不断の授業改善に取り組む。	①基礎・基本の定着につながる学習支援システムを展開する。 ②「わかる授業」作りにつながる組織的な授業改善に取り組む。	①1年生対象の学習サポートは引き続き週2回のペースで実施し、参加して欲しい生徒への声かけを工夫する。 ②2年生については、ニーズを的確に把握し、効果的な運用を検討する。 ③教科の枠を超えて授業を観察し合い、意見交換を行う等、個々の授業改善に役立つ環境を作る。 ④ICTの積極的な利活用とUD化をさらに推進する。	①参加率を高めるための新たなしくみはできたか。 ②参加して欲しい生徒の声掛けは工夫できたか。 ③学習支援ボランティアとの情報共有会議を各学期1回以上できたか。 ④新たな組織的授業改善の取組みの下、職員の授業改善に対する意識の向上が見られたか。 ⑤ICTの積極的な利活用とUD化は推進できたか。 ⑥新たに導入した8台の大型ディスプレイの活用状況はどうか。					
2	生徒指導・支援	組織的な支援体制により、生徒一人ひとりが落ち着いて学習に取り組める環境を整える。	①全職員による一斉指導を展開し、生徒の問題行動等未然防止に取り組むとともに基本的な生活習慣と社会規範を身につけさせる。 ②コア会議・ケース会議・生徒支援会議とボーダーカフェとの連携を活用した教育相談体制により、チーム支援に取り組む。	①2年間に及ぶ問題行動等未然防止推進校としての成果を活かし、HR指導や教科指導等に取り組む。 ②「笑顔と思いやり」を合言葉に安心・安全・健全な学校を目指す。 ③引き続き、部活動加入率増加を目指す。 ④SC・SSW・SCC・SM、さらにはカフェ個別相談(どろっぴん)との生徒情報の共有を密にし、昨年度同様、特にいじめ防止のアンテナを高く、全職員による教育相談・チーム支援に取り組む。	①HR指導や教科指導等を含めた全職員による一斉指導により生徒の問題行動等の未然防止に一定の効果がみられたか。また生徒の基本的な生活習慣と規範意識に向上は見られたか。 ②「笑顔と思いやり」は浸透したか。 ③SC・SSW・SCC・SM・カフェ個別相談(どろっぴん)との生徒情報共有や連携は密であったか。 ④生徒の課題に関して、情報を共有することで、早期発見・早期支援に繋げることができたか。 ⑤いじめ防止に関する職員研修を実施することができたか。					
3	進路指導・支援	自立した個人として自己のキャリア意識を高め、社会と関わり貢献できる生徒を育成する。	①総合的な学習の時間を中心とした3年間の系統的なキャリアプログラムを実践・検証を継続する。また朝読書を進路実現	①1年生のキャリアプログラムの改善を図り、地域社会・生徒とも満足度の高いものとする。 ②2・3年生のキャリアプログラムの着実な実施と	①1年生のデイキャンプや社会体験が前年度を上回る参加率や満足度となっているか。 ②2年生のアンケートを2回実施し検証できたか。 ③大和法人会や多くの事業所に					

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		ために効果的に活用する。 ①地域・社会と連携したキャリア教育実践プログラムにより生徒の社会実践力を高める。	検証をする。 ②大和法人会と連携し社会体験プログラムをより充実した内容で行う等、外部資源を活用し、生徒の職業観・勤労観の育成を図る。 ②進路室・SCCの効果的な活用を図り進路実現につなげる。	本校の特徴を理解していただくことができたか。 ②大和法人会や協力企業からの要望等を反映させてプログラム運営の改善ができたか。 ②就職希望の3年生のSCCの活用度が80%をこえているか。					
4	地域等との協働	保護者や地域との協働による学校づくりを推進し、人と社会と未来につながる開かれた学校づくりを推進する。 ① 学校説明会やHP等を活用した情報発信により、教育活動に有効な外部資源との連携を強化し、推進する。 ②学校運営協議会制度を活用し、外部評価を取り入れた教育活動を推進する。	①ボランティア活動において生徒に広く周知するとともに、社会福祉協議会やボランティアセンターと連携し継続的な活動をしていく。 ①学校説明会やHP、公式ツイッター、まちcomiメールなどの様々なメディアを駆使して、保護者や地域とのつながりを強化するための効果的で継続的な広報活動を行っていく。 ②2期目(3年目)の学校運営協議会(やまひが協議会)と実働5部会が連携し活動し、学校運営の充実を図る。 ②生徒防災委員を中心とした実践的防災教育を継続するとともに、コミュニティー・スクールの特性を生かしたプログラムを実践し、地域とともに全校生徒の防災意識のさらなる向上を目指す。	①大和青年会議所と連携することで、生徒のボランティアに対する意識を向上できたか。 ①地域とのつながりによって行われている教育活動の様子を効果的・継続的に発信することができたか。 ①学校説明会や体験授業、部活動体験の工夫で、クリエイティブスクールの特徴や魅力を伝えることができたか。 ①学校説明会や個別相談会で延べ1600名、中学校訪問50校、公式ツイッター250件の発信はできたか。 ②新しい委員とともに、計画どおり、やまひが協議会と各部会を運営することができたか。 ②5つの部会がそれぞれの委員と連携を図れたか。 ②生徒参画型防災訓練・生徒DIG研修会・宿泊防災訓練は、地域と連携して実施できたか。 ②災害発生時の家族との連絡方法や防災備蓄品についての知識が深まるような取組みを実施できたか。 ②生徒・職員の防災意識は高まったか。					
5	学校管理 学校運営	すべての職員が学校運営の主体としての意識を共有し、一体となって教育活動に取り組む組織づくりを行う。	①私費会計及び進路関係の書類の発行業務の事故防止に努める。	①事故防止研修会などの機会を年間を通じて効果的に設けることで、事故防止に対する職員の意識の向上を図る。	①調査書を始めた進路関係の書類の発行業務をミスなく行えたか。 ①私費会計業務全般について、会計監査や財務事務調査時の改善指摘事項が前年度よりも減少したか。				